

200万~400万円

バランスの妙が大人の男に
相応しい

このあたりがBRIQ世代のボリュームゾーン。シンプルで華やかな時計も、あるいはちょっとした複雑機能を搭載した時計も、どれもがハイクオリティである。

特集・パーゼル&ジュネーブ評鑑
いま、コンサパC時計が帰ってきた

伝統と進化と驚きと……

価格帯別 新作時計全 45ブランド



HUBLOT

ビッグバン初のダイバーズウォッチである。従来のビッグバンのケース径44.5mmでも十分大きいのに、さらにケース径は大きく48mmとなっている。モデル名はビッグ・バン・キングだ。ベゼルはセラミック製、その表面は削って180度のマーカを埋め込むという手作業で行われている。このベゼルのデザインと質感が、ビッグバン・キングをより魅力的にしている。30分防水。自動巻。1800円。10270500 (竹ノ口ジャック)

時計に限らず何か大きな買物をする上で、「価格」というものはかなり重要なファクターとなる。我々の視線にかなったものがそれほど安値なわけもなく、「これはいい」と思ったところで、まずは値段が気になる。たまた高価なものを買えはいいというわけにはいかないのも、時計選びの困難さである。

ウブロ フォーラム パリ



会場はル・ムーリス(1)のバンケットルーム。ビバー氏のスピーチは1時間半ほど続いた。



彼らはエンドユーザー。自分のコレクションを自慢しに来たのではなく、ウブロの新製品を見に来ている。



パゼルワールドとS11日が終わると休職をとるCEOが多い中、ウブロのビバー氏は世界各国でユーザーと接する場を設け、意見交換をしているのである。

4月下旬、パリでウブロのフォーラムがあるというので出席した。出席者は少数の販売関係者とジャーナリストがいるだけで、ほんの少しだが、「アキバ系」の匂いが漂う。そんな連中がパリのル・ムーリスにいるのだから驚きである。

このメインイベントはミニチュランの三つ星を獲得している。その賞金料金が食べられるのだ。着席で、そのうえ無料なのだ。だから、パリのウブロファンは羨ましい。ビバー氏はテーブルに運ばれる酒中の真意を引っぱらまぜ、1時間半にも及ぶ自分のスピーチが終わるまで粘りこたえなかつたのだから。



独特なファッションセンスを持っている。今はフュージョンが人気に入りのようだ。



ローレン・ビチョット氏。使用している時計はオールブラックのプロトタイプ。リュウスの左側に付いている。

「時計はファッションの一部です。時計はファッションの一部です。時計はファッションの一部です。」



HUBLOT



オールブラックではなかったが、黒を基調にしたシックな店内。



ふたりとも笑顔だが、ビチョット氏は納品の催促をしていた (はず)。



HUBLOT BOUTIQUE PARIS
271, RUE ST-HONORE
75001 PARIS
Tel : +33 147 03 39 99

世界初のウブロショップ
2002年3月9日で閉じたパリのクロノパッション。当時からリシャール・ミルを扱っていたマニアックな時計店だが、その隣にウブロショップがオープンした。以前はオーデマピゲのショップだった場所だ。経営者はクロノパッションと同じローレン・ビチョット氏。時計に対する愛情が非常に興味深い。

「オーデマピゲとの契約を解消する」とも、最初に顔に浮かんだのがウブロです。クロノパッションでウブロを扱っていましたが、ウブロを特別扱いすることは私にとって重要なことだったのでです。」

デザイン性や使用感(ラバーストラップはウブロが一番の使い心地だといふ)など、個人的にもウブロが好きになりました。

「ビバー氏と話をして、世界初のウブロショップを作り、一緒に世界にウブロのパワーを見せたい」といふことになりました。

初のウブロショップなのだから在庫も多いかと思ったら、オールブラックのパパネーター50本、カパチーノ30本、計80本のパパネーターがあるとのことでした。

「困るのは生産が需要に追いついていないことです。ウブロの欲しいモデルを手に入れることは非常に困難なようなものでしょう。そこは、当分の確率が一番高い宝探し現場かもしれません。」